

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.5/2(月) ~ R4.5/8(日)

令和4年第18週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	3026人	3861人	-	-
	② 対人口10万人	196.5人	250.7人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.78	0.75	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		96%	96%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		40.4%	37.2%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		5/8現在	5/1現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	59人	94人	-	-
	確保病床数	481床	481床	-	-
	病床使用率	12.3%	19.5%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	2人	3人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	2.9%	4.3%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	2090人	3466人	-	-
	⑨ 対人口10万人	135.7人	225.1人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	5/8現在	5/1現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	2.8%	2.7%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.5/2 ~ R4.5/8	前週 R4.4/25 ~ R4.5/1	累計 R3.3/11 ~ R4.5/8
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	0件	0件	626件
ο株 (オミクロン) : BA.1	1件	4件	579件
ο株 (オミクロン) : BA.2	14件	20件	120件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、令和4年第1週（1月3日～9日）から第5週にかけて、新規陽性者数の急速な増加がみられました。第6週（2月7日～13日）13,960人をピークに第12週6,282人まで6週連続して減少し、第13週6,687人、第14週7,029人と2週続けて一時増加しましたが、第18週（今週：5月2日～5月8日）3,026人と4週続けて減少となっています。

入院患者は第7週（2月14日～20日）335人をピークに、第15週（3月11日～17日）76人まで8週間連続して減少しましたが、第16週92人・第17週94人とやや増加、第18週（今週）は59人と減少しています。入院中の重症患者数は第8週（2月21日～27日）30人をピークに、第14週2人まで減少、第15週・第16週ともに5人とやや増加し、第17週3人、第18週2人に減少しました。

療養者数（入院・自宅および宿泊療養者数）は、第5週（1月31日～2月6日）17,136人をピークに第8週9,667人と3週連続して減少、第9週は9,885人とやや増加し、第10週より再び減少して第12週5,123人と4週連続して減少となりました。第13週5,466人、第14週5,912人と2週連続して増加しましたが、第15週から再び減少し、第17週3,466人、第18週2,090人と4週連続して減少となっています。

ステージ分類は、第12週～第14週は、ステージⅣが4/6項目、ステージⅢが1/6項目でした。第15週に、病床使用率がステージⅢから解消となったためステージⅢが0/6項目となり、ステージⅣは変わらず4/6項目となりました。第16週～第18週（今週）もステージⅣが4/6項目・ステージⅢはなし、となっており、この状態が4週連続しています。

上記のように第18週（今週）は第17週よりもいずれの数値もおおむね減少ないし停滞にありますが、連休中の1週間であり、数値を見るうえでいつもの医療・生活状態とは異なっている可能性があることに留意が必要です

<感染の状況：直近1週間>

① 新規陽性者数は、昨年末の微増傾向に続いて令和4年第1週522人から、第2週2,569人→6,882人→12,534人→13,617人と急増しました。第6週13,960人をピークとして、第7週12,983人→10,908人→10,205人→8,675人→6,679人→6,282人と6週連続して減少しましたが、第13週6,687人・第14週7,029人と2週連続して増加し、その後第15週6,052人→5,114人→3,861人、そして第18週（今週）は3,026人と4週連続して減少が続いています。

② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も、①と同様に昨年末の微増傾向に続いて、令和4年第1週33.9人から、第2週166.8人→446.9人→813.9人→884.2人と急増しました。第6週906.5人をピークとして、第7週843.1人→708.3人→662.7人→563.3人→433.7人→407.9人と6週連続して減少しましたが、第13週434.2人・第14週456.4人と2週連続して増加し、その後第15週393.0人→332.1人→250.7人、そして第18週（今週）196.5人と4連続して減少が続いています。

ステージ分類は、第1週から第18（今週）まで18週連続してステージⅣのままとなっています。

③ 前週との増加比は、昨年末には微増しながらも1.0以下でしたが、令和4年第1週18.0、第2週4.92と急増しました。第3週から2.68→1.82→1.09→1.03と減少が続き、第7週に0.93と再び1.0を下回りました。第8週0.84から第9週0.94→0.85→0.77と上下し、第12週は0.94と増加したものの6週連続して1.0を下回っていましたが、第13週1.06、第14週1.05と2週連続して1.0を上回りました。その後第15週0.86→0.85→0.75、そして第18週（今週）0.78と、4週連続して1.0を下回っています。

④ 感染経路不明者の割合は、昨年第52週の72%から、令和4年第1週68%→79%→85%→88%と上昇し、第5週から第18週（今週）まで90%以上の高値が14週連続しています。

ステージ分類では、19週連続してステージⅣのままとなっています。

⑤ 検査陽性率は、昨年末の微増傾向に続いて、令和4年第1週9.4%から、第2週26.4%→39.4%→

43.6%→51.1%と増加し、その後約 45～55%を上下し、第 15 週 40.9%から第 18 週（今週）40.4%と、4 週連続しておおむね 40%前後となっています。

ステージ分類では、17 週連続してステージⅣのままとなっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 5 月 8 日現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、昨年第 49 週は 2 人までと少数になりました。第 50 週 5 人→14 人→16 人と微増し、年が明け令和 4 年第 1 週 23 人から、第 2 週 75 人→134 人→216 人→280 人→298 人と増加し、第 7 週 335 人をピークに、第 8 週 322 人→279 人→215 人→161 人→138 人→121 人→101 人、そして第 15 週 76 人と 8 週連続して減少しました。第 16 週 92 人・第 17 週 94 人とやや増加しましたが、第 18 週は 59 人と再び減少しました。

確保病床数は現在 481 床となっております。入院病床使用率は、令和 4 年第 1 週 4.8%から急増し、第 7 週 70.2%をピークとして第 15 週 15.8%まで 8 週連続して減少しました。第 16 週 19.1%・第 17 週 19.5%とやや増加しましたが、第 18 週（今週）は 12.3%と再び減少しました。

ステージ分類では第 5 週～第 9 週と 5 週連続してステージⅣ、第 10 週～第 14 週がステージⅢ、第 15 週は 15.8%となりステージⅢの指標 20%以上を下回ったためステージⅢ解消となり、第 16 週～18 週（今週）も同様に 4 週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑦ 重症入院患者数は、昨年第 47 週～第 52 週は 0～1 人を前後し、令和 4 年に入って第 1 週も 0 人でしたが、第 2 週 1 人→3 人→4 人→11 人→21 人→25 人→30 人と増加しました。第 9 週 25 人→14 人→15 人→10 人→3 人→2 人と 6 週連続して減少し、第 15 週・第 16 週はともに 5 人とやや増加しましたが、第 17 週 3 人、第 18 週（今週）2 人と減少し、6 週連続して一桁台となっています。

重症者の確保病床は現在 69 床となっており、重症病床使用率は、昨年第 47 週から本年第 2 週の間は 0%～1.4%を繰り返していました。第 3 週 4.3%から増加が続き、第 8 週の 43.5%をピークに、第 9 週 36.2%→20.3%→21.7%→14.5%→4.3%→2.9%と減少が続いていましたが、第 15 週・第 16 週はともに 7.2%と増加、第 17 週は 4.3%、第 18 週（今週）は 2.9%と再び減少しています。

ステージ分類では第 6 週～第 11 週は 6 週連続してステージⅢとなっていました。第 12 週にステージⅢ解消となり、以降第 18 週（今週）まで 7 週連続してステージⅢ解消が続いています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、昨年末の微増傾向から、令和 4 年第 1 週 367 人、第 2 週 1,785 人→4,743 人→8,677 人→17,136 人と急増し、第 5 週の 17,136 人をピークとして、第 6 週 11,274 人→10,903 人→9,667 人と減少しました。第 9 週に 9,885 人と微増した後、第 10 週 8,593 人→6,365 人→5,123 人と減少がすすみ、第 13 週 5,466 人・第 14 週 5,912 人と 2 週連続して増加しましたが、第 15 週 5,088 人→3,980 人→3,466 人、第 18 週（今週）は 2,090 人と 4 週連続して減少しています。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人も、昨年末の微増傾向から令和 4 年第 1 週 23.8 人から、第 2 週 115.9 人→308.0 人→563.4 人→1,112.7 人と急増しました。第 5 週の 1,112.7 人をピークに、第 6 週 732.1 人→708.0 人→627.7 人と減少し、第 9 週は 641.9 人と微増しました。第 10 週 558.0 人→413.3 人→332.7 人と再び減少しましたが、第 13 週 354.9 人・第 14 週 383.9 人と 2 週連続して増加し、その後第 15 週 330.4 人→258.4 人→225.1 人、そして第 18 週（今週）135.7 人と 4 週連続して減少しています。

ステージ分類は、第 2～第 18 週の 18 週連続してステージⅣのままとなっています。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。令和 3 年 3 月 11 日～令和 4 年 5 月 8 日までに詳細なゲノム解析で判明した本市のオミクロン株累計は 699 件で、そのうち BA.1 が 579 件、BA.2 が 120 件となっています。第 15 週の検査ではオミクロン株 45 件中、BA.1 が 14 件、BA.2 が 31 件。第 16 週はオミクロン株 19 件中、BA.1 が 2 件、BA.2 が 17 件。第 17 週はオミクロン株 24

件中、BA.1が4件、BA.2が20件、第18週ではオミクロン株15件中、BA.1が1件、BA.2が14件となっており、このところBA.2の方が多くなっています。なおここでの詳細なゲノム解析件数は、川崎市健康安全研究所及び外部委託検査で判明した件数の合計数としています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング第18週（5月1日～5月8日）は、

- ・第13・14週と一時増加がみられた新規陽性者数が、第15～18週（今週）と4週続いて再び減少となりました。
- ・入院患者は第7週から8週連続して減少しましたが、第16週92人・第17週94人とやや増加し、第18週は59人と再び減少しました。入院病床使用率は、第15週15.8%まで8週連続して減少していましたが、第16週19.1%・第17週19.5%とやや増加し、第18週（今週）は12.3%と再び減少しました。
- ・入院中の重症患者数は第14週2人まで減少、第15週・第16週ともに5人とやや増加しましたが、第17週は3人、第18週（今週）は2人と、再び減少しました。重症病床使用率は、第15週・第16週はともに7.2%、第17週は4.3%、第18週は2.9%と再び減少しました。
- ・入院・自宅および宿泊療養者総数は減少が続いています。
- ・ステージ分類は、第15週～第18週（今週）もステージIV4/6項目・ステージIIIなしとなっており、この状態が4週連続しています。

なお、第18週（今週）は第17週よりもいずれの数値もおおむね減少ないし停滞にありますが、連休中の1週間であり、数値を見るうえでいつもの医療・生活状態とは異なっている可能性があることに留意が必要です

3月22日より全国で緊急事態宣言・まん延防止重点措置の適用地域はなくなり、3年ぶりの緊急事態宣言・まん延防止重点措置地域のない連休シーズンとなりました。川崎市内においては、第13・14週の新規感染者数は2週間連続して増加がみられましたが、第15～18週は再び減少となっています。新規感染者の数値の細かい上下に一喜一憂する必要はなく、目下のところ市内の新型コロナウイルス感染者のための病床は重症者病床も含めて落ち着いた状態にあり、一般医療もほぼ通常に行われていますが、感染を受ける機会が高い状況がまだ続いています。また関東首都圏の新規感染者数も緩やかな減少傾向にあります。一定数の新規陽性者数はまだ多く発生しています。地方自治体によっては感染が拡大傾向にあるところもあります。感染してご自分に及ぶリスクは少ないとしても、身の回りの方に感染が及び重症者にならぬよう、基本的な感染予防に関する注意は続けられるようお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、様々な場において感染を受けない、感染をさせないための基本的な注意点です。一方、人の少ない戸外などでは感染のリスクはほぼないといっている状況なので、マスクを外し良い空気を一杯吸い込むことも健康上良いことです。

連休が終わっても、お出かけの機会は次第に増えてくると思いますが、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯はできれば避けて、少人数単位でゆっくりと過ごされることをお勧めします。また連休後に体調がおかしい、発熱が続くなどがみられた時には、無理をしないで早めに受診をすることなどをお勧めします。日常生活をできるだけ取り戻し、それが維持できるようになるため、引き続きご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、ワクチンを2回接種した人は、接種していない人に比べて入院率・重症化率は明らかに低くなるのが国内外から報告されています。一方、現在使用されている新型コロナワクチンは、2回の接種を受けても、残念ながらその効果は早めに減少をしてしまうことも明らかになってきています。2回接種を受けた人は感染しても軽症で済むことが多いのですが、他の人に感染を広げることもあり、また中には中等症～重症になる場合もあるので、2回目の接種から6か月を過ぎ3回目の接種が可能となったならば早めに3回目接種を受け、ご自身の免疫を強めておくことをお勧めします。3回目のワクチン接種は、川崎

市内ではファイザー社製とモデルナ社製の2種類が接種可能となっています。副反応に関してはファイザー社製のほうがモデルナ社製より若干低く、効果に関してはモデルナ社製のほうがファイザー社製より若干高くなると報告されていますが、両ワクチンに実際上の大きな差はありません。どちらのほうでも結構ですので、早めに3回目の接種を受けられることをお勧めします。もちろん2回接種がまだの方は、早く2回の接種を終えておくことをお勧めします。